

---

## 平成21年度予算第二特別委員会質問要旨

---

○ 局別審査

平成21年3月3日

質問者（質問順）

1 山下正人委員（自民党）

2 串田久子委員（民主党）

3 高橋正治委員（公明党）

4 山田桂一郎委員（民ヨコ）

5 河治民夫委員（共産党）

水道局

# 局 別 審 査

1 山下正人委員（自民党）
---------------

## 1 企業体としての運営について

- (1) 水道事業を営む企業として、将来の展望、今後の方向性についてどう考えるのか。
- (2) 水需要が減少する中で、経費削減策をどのように考えるのか。
- (3) 市民要望にこたえる品質向上をどう考えるのか。
- (4) 水道料金検針票のシール化について、コスト面で見直しも必要なのではないか。

## 2 川井浄水場のPFI事業について

- (1) 結果として、3社が辞退、1社のみが入札となった事をどう受止めるのか。
- (2) この事業をPFI手法で実施することにより、コスト面でどのような期待ができるのか。
- (3) 市内企業も浄水場の建設工事等に参画できるように、SPCに促すことはできないものか。
- (4) 横浜市水道局の海外競争力はどのような状況と把握をしているのか。
- (5) 商業銀行中心の日本の銀行に事業内容を評価できる能力があるのか。当該事業は銀行側のリスクは大変低く横浜市は金融機関に余分な経費を支払っているように思うがどうか。
- (6) 横浜市としてPFI事業の評価・監視の出来る組織・部署が必要と思うが、今後、専門家を交えた組織等の必要性はないのか。
- (7) 今後の施設更新予定はどうか。

## 3 老朽管対策について

- (1) 水道管の長寿命化の必要があると考えるが、何か方法があるのか。
- (2) 水道管リサイクルシステムの効果はどう考えるのか。

(3) 水道局の持つノウハウ等は、他都市にとって有益なものが多いが、実用新案の登録は可能か。ビジネスとして活用できる資源ととらえられるか。

#### 4 国際貢献について

(1) 横浜の技術を世界にアピールする意味で、国際貢献事業をどう評価するのか。

(2) 現地で報道されている内容も含めて、その評価はどうか。

(3) アジア・アフリカ等は、水事情が悪く、横浜市での上水環境が良くなることは、現地の人々にとって大変大きな意義のある事業であると考えているが、今後の国際貢献の展開をどのように考えているのか。

#### 5 人材育成・技術の継承について

(1) 事務職も含めて、局全体としての人材配置についてどのように考えているのか。

## 2 串田久子委員（民主党）

### 1 平成21年度予算について

- (1) 21年度は中期経営計画の見直しの初年度に当るが、予算編成はどのような考え方で行ったのか。
- (2) 内部経費の節減を図るとのことだが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

### 2 料金整理業務の委託化について

- (1) 今後の料金整理業務の委託化の進展についての予定はどうか。
- (2) これまでの4区の状況はどうか。
- (3) 混乱があったということだが、お客さまからどのようなご意見、苦情などがあったのか。
- (4) 担当者一人当たり件数はどのくらいか。
- (5) 担当者一人当たり件数というのは委託化されてからとされる前とで変化があったのか。また、大体どのくらいを適正な数と考えているのか。
- (6) 委託料金整理員の雇用形態はどのようなものか。
- (7) 多様化していく雇用形態の中でどのような観点から人材育成をしていくのか。
- (8) 1年間の経験から反省点もあると思う。委託業者に届いた苦情などの問題点は市に伝わりにくい。どうやって問題点を把握していくのか。
- (9) 改善すべきところは委託業者が共有することが望ましい。委託化された事業者に対して、改善点をどうやって伝えていくのか。
- (10) 委託化を順次進めるにあたってこれまでの改善すべき点は解消されたのか。また、現在直面している改善すべき点はあるのか。
- (11) 民間事業者に対する現場のチェック機能についてどのような体制をとっているのか。
- (12) 滞納した家族への対応などの技術継承や人材育成について今後どのように進めていくのか。

(13) 未納件数などの推移はどうか。そして、今回のような急激な変化により発生した現在の局面において、未納に対する考え方は異なっていくのか。

(14) 収納率を下回った場合ペナルティを課す仕組みを用意していると回答があったが、現状はどうなっているのか。

### 3 鉛管改良事業について

(1) 鉛管改良事業は、14年度以来7年間にわたり取り組み続けていると聞くが、現在の鉛管の状況はどうか。

(2) 鉛管改良についてどのような計画の下で行われてきたのか。

(3) 宅地内の鉛管改良が進まない理由は何か。

(4) 鉛管は現時点で健康上の問題はないのか。たとえば朝一番の水を子供がうっかり飲んでしまった場合、どのような影響があるのか。

(5) パイプイン・エコ工法とはどのようなものか。利点は何か。また、実施状況は計画通りなのか。

(6) メーター前後だけ樹脂管を通すということだが、なぜ、メーター前後だけなのか。

(7) 今後の鉛管改良計画はどうなっているのか。

(8) パイプイン・エコ工法でできない箇所はあるのか。

### 4 受水槽の巡回点検と4階直結直圧式給水について

(1) これまでの3階直結直圧式給水の実績はどれだけか。

(2) 受水槽に対する法令上の規定はどうなっているのか。

(3) 市内の受水槽の設置状況はどうか。特に、点検義務などの規定がない8立方メートル以下の小規模受水槽の数はどうか。

(4) 受水槽は所有者に管理責任があるが、水道局としての関与の実情はどうなっているか。

(5) 受水槽の無料巡回点検の実施状況と今後の予定はどのようになっているのか。

(6) 所有者が受水槽の清掃や点検を専門業者に依頼すると4～5万円ほど費用がかかるようだが、直結給水にした場合には、所有者にとって、どのようなメリ

ットがあるのか。

- (7) 4階直結直圧式給水が可能な水圧条件は0.25メガパスカル以上でかつての3階直結直圧式給水と同じであるが、どのような理由で4階へと拡大できたのか。
- (8) 4階直結直圧式給水は21年4月から実施することになっている。事前協議や相談はすでにあるのか。
- (9) 今回の4階直結直圧式給水は新設建物が対象だが、既存建物も対象にしている計画はあるのか。

## 5 地震対策について

- (1) 大規模な地震発生時に大都市相互の支援体制が必要になってくると思うが、この点についてはどのようにしているのか。
- (2) 相互応援都市との日常的な情報交換や訓練等は、どのように行っているのか。
- (3) 水道局の水の缶詰について、20年度の製造はどのように検討したのか。

### 3 高橋正治委員（公明党）

#### 1 水質の確保について

- (1) おいしい水とはどのような水なのか。
- (2) 横浜の水道水は、おいしい水の要件からするとどの程度なのか。
- (3) トップレベルの安全でおいしい水を作るために、どのようなことを行っているのか。
- (4) 独自の水質目標を達成するために行っている取り組みについて、伺いたい。
- (5) 水道水でおいしい水の要件を満足するためには、残留塩素濃度を1リットルあたり0.4ミリグラム以下にする必要があるが、水道局ではどのような取り組みを行っているのか。

#### 2 水源の保全について

- (1) 横浜市の水源の水質保全対策について、伺いたい。
- (2) 水源の監視をどのように行っているのか、また、水質汚染事故はどれくらい発生しているのか。
- (3) 水質汚染事故時の対応はどうしているのか。
- (4) ペットボトル水の販売推進については、今後どのように取り組んでいくのか。

#### 3 国際貢献について

- (1) ベトナム・フエのプロジェクトの内容はどのようなものか。
- (2) 2年間のプロジェクトにおける派遣・受入実績について、伺いたい。
- (3) プロジェクトではどのような成果があったか。
- (4) 20年度のアフリカからの研修生受入事業の内容について、伺いたい。
- (5) 21年度はどのように取り組んでいくのか。

#### 4 災害復旧について

- (1) これまでの被災地域への復旧応援の経験から、局として何を得たのか。

(2) 現在水道局では水道管等の修理部品のストックはどのくらいあるのか。また、横浜で大きな地震災害が発生した場合は、どのようにして水道の被害や復旧状況を市民に情報提供していくのか。

## 5 技術開発体制について

(1) 技術開発の強化と知的財産の開発とあるがどのような体制で進めていくのか。

(2) 研究開発を推進することでどのような効果があるのか。

(3) 今までに技術開発によって取得した特許にはどのようなものがあるのか。これにより得た収入はどのくらいあるのか。また、水道局には、どのくらいの技術士等がいるのか。

(4) 技術開発には、大学、企業等と共同でいわゆる産官学共同で実施するのがより効果的と思うが、今後どのように連携をしていくのか。

## 6 漏水率の低減について

(1) 現在、使用者や所有者が維持管理している給水装置について、局としてどのように関与しているのか。

(2) ステンレス管とは、どのような材料で、継ぎ手はどのようなものを使用するのか。また、使用するメリットはなにか。それと従来から使用している硬質塩化ビニルライニング鋼管とでは、工事費用はどのくらい違うのか。

(3) 配水管は、どのくらい経ったら取り替える必要があるのか。また、取替えによる効果はどうか。

(4) 他都市の漏水率の状況はどのようになっているのか。

## 7 財源の確保について

(1) 21年度8行政区で、新たに料金整理業務と検針業務を一括委託するが、直営と比較したその効果について、伺いたい。

(2) 21年度料金整理業務と検針業務の委託化の割合について、伺いたい。

(3) 委託した料金整理業務と検針業務の精度は、どのように保っているのか。

(4) 料金整理業務と検針業務以外に、料金関係業務の委託を拡大できないのか。

- (5) 委託化以外に、料金関係業務の経費削減策を何か検討しているのか。
- (6) 「新たなビジネスに向けた体制の検討」を新規事業として盛り込んだ目的について、伺いたい。
- (7) 「新たなビジネスに向けた体制」を検討するにあたって、課題はどのようなものと考えているのか、また、その課題に対してどのように解決しようとしているのか。
- (8) 「新たなビジネスに向けた体制の検討」について、21年度の取組への局長の考え方について、伺いたい。

## 8 今後の経営の見通しについて

- (1) 持続可能な水道サービスを提供していくために、今後の水道事業経営の方向性をどのように考えているのか。

4 山田桂一郎 委員（民ヨコ）

1 子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業について

- (1) この事業の目的は何か。
- (2) この事業は、どのような学校を対象にしているのか。また、水道局と教育委員会の役割分担はどうなっているのか。
- (3) 市内の小・中学校等のうち、屋内水飲み場を直結給水に切替えたのは何校あるのか。
- (4) 21年度実施予定及び今後の計画はどうなっているのか。
- (5) 屋内水飲み場に直結給水方式を導入した後、子供たちの評判はどうか。
- (6) 子供たちを対象にしたPRはどのようなことをやっているのか。
- (7) 水道使用量が減少傾向にある中で、水道局として水道水を飲むための啓発活動をどのように行っていくのか。

2 危機管理対策について

(1) 水源状況について

ア 現在の水源の貯水量の状況はどうか。

イ 世界的な気候変動の中で、横浜の水源状況については、将来的にどう考えているのか。

(2) 新型インフルエンザ対策について

ア 新型インフルエンザが流行した時でも、水道局は24時間水を供給し続けなければならない。水道局はどのような対応を考えているのか。

イ 50日間の感染防護具とはどのようなものか。

ウ 予算が700万円ということは、一人当たりどのくらいの金額か。

エ 金額があまりにも少ない気がするが、それに対応できるのか。

オ 新型インフルエンザ発生時には、最低限の職員をどのように確保するのか。

カ 新型インフルエンザが発生した場合、水への影響はどうか。また、発生した場合、どうするのか。

(3) 緊急時の飲料水確保について

ア 緊急時の応急給水拠点整備の現状はどうなっているのか。

イ 今、整備中の災害用医療拠点病院などへの管路の耐震化の整備状況はどうなっているのか。

ウ 災害時の飲料水確保の拠点として、また、管路への水の供給元となっている市内配水池も危機管理の上で重要な施設と考えるが、現状、配水池上部の利用状況はどうなっているのか。

エ 市民開放をしている配水池もあるが、安全対策として、どのような措置が取られているのか。

3 雇用に対する寄与について

(1) 水道局では、緊急雇用対策にどう対応しているのか。

(2) 21年度に老朽管更新を増加する費用はどれくらいか。

(3) 事業費が増えることによって、横浜市内の事業者は、経済効果が期待できる。

それでは、市内業者は、どのくらい受注できているのか。

(4) メーター検針や料金整理の委託は民間への事業開放となるが、委託による21年度の雇用創出はどのくらい見込んでいるのか。

(5) 正社員として雇用される者はあるのか。

4 資産活用と新たなビジネスについて

(1) 料金収入以外に、どのような収入確保策を講じているのか。

(2) 不動産の活用について新たに始めたものはあるのか。

(3) その貸付の内容と、貸付の実績はどのくらいか。

(4) 現時点で、20年度の不動産の売却実績は、どのくらいか。そしてそれは、どのような土地であったのか。

(5) 水質検査の受託とはどのようなことか。また、現時点で、20年度の収入実績と見込みはどのくらいか。

(6) 漏水調査の受託とはどのようなことか。また、現時点で、20年度の収入実績と見込みはどのくらいか。

(7) 今後、新たなビジネスに向けた体制の検討をするとあるが、新たなビジネスとはどのようなことを考えているのか。

5 河 治 民 夫 委 員 ( 共 産 党 )

1 水道管の更新・耐震化について

- (1) 平成18年度から水道局が布設するすべての水道管は耐震管を使用しているということだが、その機能はどのようになっているのか。
- (2) 市内の水道管の延長は9000kmにも及ぶが、見直した中期経営計画のペースで市民に安心できる水道事業を担保できるのか。
- (3) 市民がもっと安心できるように、水道管の耐震化をさらにスピードアップできないのか。
- (4) 全体の9000kmを単に平準化したように聞こえるが、地震に対する安心という点では、さらにスピードアップが求められると考えるがどうか。

2 人材確保と市民への還元について

- (1) 平成18年度から20年度までの技術職と技能職の職員数の推移と変化があればその理由を伺いたい。
- (2) 技能職を技術職に転職するときのプロセスは、どうなっているのか。
- (3) 研修のための研修期間や学習期間に、欠員が生じると思うが補充はしているのか。
- (4) 10か年プランでは、平成17年に約2100人の職員数を、平成27年には1400人までに減らすことにしているが、これだけ減らして、市民に安心できる水道事業を保障できるのか。
- (5) 市民に対し水道局として事業運営の責任を果たすために、技能職及び技術職を継続して確保する必要があり、新規採用などで補充すべきであると考えているがどうか。
- (6) 職員の削減については、災害等非常事態の備えとして問題はないのか。
- (7) 平成21年度末では、84億円の累積資金を計上しているが、経済悪化の中で、水道料金の値下げなど市民への還元をすべきと考えるがどうか。